

こころの便り

第290号
令和6年5月

〒679-4343
兵庫県たつの市新宮町大屋六六八十二
株式会社新宮運送グループ
代表/木南 一志
kiminami@shingu.co.jp
電話 0791-751212



新宮運送ホームページ

真の国際化

外国人が増えている。観光客ではなくて、田舎にも住んでいる外国人が当たり前に見られるようになった。ほとんどの業界で外国人労働者が許可されて、トラックドライバーも例外ではなくなった。

規制を外されていくスピードがとても速い。行政側も意見を聞くシステムであるパブリックコメントの募集期間もとても短くなっている。

セクハラやパワハラ・失言騒ぎで消えていく首長、国政を預かる代議士が裏金や離党、処分などと言っている間に国会は新しい法律を次々に通していく。いつの間に決まったの？と思えるような新しいルールが生まれて、そこにぶら下がる形でネットを通じて周知する業界関係者がずいぶん増えたと感じられる。

何が大切なのかを議論しないまま、時代に合わせるためにと集められた国民の声と言われ、ものが政治を動かしている体にはなっているが、官僚主導は今も昔も変わらない。昨夏に減税と首相が叫んで、実施できるのはこれか。それ、いろんな手続きがあり、とてもややこしい。それを会社でやれという。給料計算の時に扶養家族の収入や家族構成などを考慮して計算せよというのだ。そのうえ事務手数料など一切出ない。

社会保険料は決定通知だけで値上げされて、税負担と共に計算すれば、世界の中で日本はどれほど政府が巻き上げているのかと感じてしまう。決して税金が公務員のポケットに収まっているわけではないが、手続きに手間がかかり、行政の窓口には手続きを確認するための公務員ではない人たちが巻き巻きながら手続きを進める。顕著なのは、確定申告ではないか。

説明をする税理士業界はタダだと聞く。政治家は領収書のいらぬ金を得ることができて、庶民は汲々とした生活を余儀なくされた上に、残業をするなどという。

世界に伍する人材を生み出してきた我が国が根こそぎ崩れようとしている。

「何が正しい姿なのか」という議論を重ねていかなくは、傾き、崩れかけている成熟期の日本が消えていくことになる。そのスピードは速い。

被災地にこころを寄せながら

木南 一志 拜

NPO法人 愛ランド様の協力で障害を持つ皆さんが宛名貼り、封入作業をしてお届けさせていただいております。

尋常小學國史 上巻

第十三菅原道真①

平安京の御代の初の頃は、朝廷の御威光すこぶる盛なりしが、間もなく藤原氏勢をふるふに至れり。

藤原氏は其の先祖鎌足の大功をたてしより、世々大臣となれるもの多く、光明皇后より後、御代々の皇后またおほむね此の氏より出でたまふこととなれり。されば其の一門には、攝政關白の高官にのぼるものありて、朝廷の政治をほし、いま、にし、此の氏に縁なきものは全く勢を失ひたり。

第五十代宇多天皇は、かねてより藤原氏の勢のあまりに強きを憂へたまひ、菅原道真を用ひて其の勢を分たんとしたまへり。道真は學者の家に生れ、をさなき時より學問にはげみ、十一二歳にしてよく詩を作り、やがて大人にもまさりたる學者となれり。殊に心正しき人なれば、朝廷に仕ふるに及びて、天皇の御信任すこぶるあつかりき。

宇多天皇について、御子醍醐天皇御位に即きたまふ。天皇は御なさけ深く、寒夜に御衣をぬぎて、貧民のつらさを思ひやりたまひしほどの明君にましませり。されば天皇また御父の御志をうけて、道真を右大臣とし、左大臣藤原時平とならびて政を行はしめたまへり。然るに時平は家がらなれど、年若く、學問も智慧も道真におとり、天皇の御信任もまた道真の如くあつからざりしかば、不平にたへずして道真を天皇に讒せり。道真は之がために官をおとされて、筑前の太宰府にうつされたり。